

よんでネット*

春号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「大人になって おもしろい？」

清水 真砂子 著



岩波ジュニア新書
【153】

明るく前向き。協調性がある。それが良しと教わってきた。でも、この価値感是谁のためのもの？

この本は、青春期を迎え、大人へと成長していく皆さんへのメッセージ。

「怒れ!」「生意気であれ」「ひとりでいなくていいんだよ」——。悩みも弱みもひくくめ、丸ごとの自分を受け入れることから大人への一歩が始まります。

「きぼう ニこころ ひらくとき」

ローレン・トンプソン作 千葉 茂樹 訳

きぼう

それは、だれかにたいせつにされていると知ること。

じぶんにも たいせつなひとがいると知ること。

希望はいつも、すぐそばにある。

日常のささやかなことにも、あなたの心のなかにも。

そして芽をふく時を静かにまっている。

何度も開きたくなる写真絵本です。



(まるふ出版
【E・絵本のコーナー】)

「義足と歩む ルワンダに生きる日本人義肢装具士」

松島 恵利子 著

1994年のルワンダ大虐殺で、多くのルワンダ人は手や足を奪われました。茅ヶ崎出身の義肢装具士ルダシングワ 真美さんは、ルワンダ人の夫 ガテラさんとともに、20年以上ルワンダの人々に義足を届ける活動をしています。

“自分の足で立ち上がって、自分の人生を自分の力で作っていきたい”

真美さんたちの活動は、ルワンダの人々の未来を支えているのです。



汐文社
[916マ]

「わたしの空と五・七・五」

森楚 こみち 作 山田和男 絵

“しゃべりは苦みでも、ペンをもつたら
本音もぶちまけられる着よ！文芸部に
入るべし”

中学校に入ったばかりの空良は、あやしいチラシにひかれ、文芸部に入部した。見よう見まねで俳句を作るようになった空良。吟行のために校内を歩いていると、同じクラスでちょっと気になる風太が、部活の先輩とトラブルになっているのを見てしまい……。

※吟行→外を歩きながら、句を作ること。



講談社[913モ]

「月の光を飲んだ少女」

ケリー・バーンヒル 佐藤見果夢 訳

その町では、毎年赤ん坊を生簀に
捧げなければならなかった。でも、
その赤ん坊たちは善良な魔女ザンに
助けられ、離れた町で幸せに暮らして
いた。ある年、ザンは助けた赤ん
坊のかわいらしさに見とれ、うっかり
月の光を飲ませてしまう。そのため、
ルナと名付けられた赤ん坊は、魔法
の力を持つてしまう。それに気付いた
ザンは、その力をおさえようとするが、
13才になったルナは……。



評論社[939パ]